

高校生へ 私が選んだ 1冊の本

超常現象の科学 なぜ人は幽霊が見えるのか

リチャード・ワイズマン：著
(文藝春秋)

まずこの本を一目見て思ったこと。うさんくさい！『超常現象の科学』といういかにもなタイトルに、サブタイトルとして『なぜ人は幽霊が見えるのか』というおまけつきだ。ページをめくると目次には占い師、念力、幽霊といった怪しげな単語がこれでもかと並んでいる。だが心配は無用だ。これはいわゆるオカルト本といわれるような類の本ではない。この本のテーマは「超常現象」を「科学」すること。インチキでオカルトな現象を科学で現実的かつ論理的に説明してしまおうというのがこの本の目的なのだ。

著者のリチャード・ワイズマンはプロのマジシャンである。マジシャンという人の目を欺く立場だからこそ、占い師・霊媒師の使うトリックも熟知している。また、彼は心理学の博士号も取得していて、「超常現象」を主に心理学と脳科学の視点から説明している。彼の説明にはところどころユーモアがまじえてあり、一般向けに分かりやすく書いてあるので面白おかしく読める。そしてなにより、読者が超常現象を体験するための方法を教えてくれる。ご親切にも、幽体離脱を体験する方法まで詳しく書いてくれているのだ（僕はやろうとは思わないが）！

では、「オズの世界よりもはるかに不思議がいっぱいの世界」への、ほんの入り口を紹介しよう。

第一章のタイトルは「占い師のバケの皮をはぐ」。ここでは、占い師がどうやって客に占いが当たったと「思いこませる」かが説明されている。

これには、人が自分の見たいものしか見ないという性質と、ちょっとしたテクニックを利用する。

あなたは、想像力が豊かで、創造的な活動に向いていますが、いざとなると行動力を発揮し、てきばきと仕事をこなす人です。また、地道にこつこつなかに取り組む反面、ときには驚くほど自由奔放にもなります。あなたはその気になれば外向性を発揮しますが、一人読書にふけて夜を過ごすのがなにより好き、という一面もあります。どれくらい当てはまったでしょうか？

これが占い師のトリックの一つだ。文章をよく見ると、どれも正反対のことを言っている。にもかかわらず、人々は自分に当てはまるところだけ注目するので、占いがよく当たっていると「思いこむ」。占い師なんて実はこんなもんだ。

先にも触れたが、超常現象としてこの他に幽体離脱、念力、霊媒師、幽霊、マインドコントロール、予知などが挙げられている。ワイズマンが言うには、ほとんどが「脳の誤作動」によるものだという。人間の脳は進化し複雑化していくあいだに、見えないものまで見えるようになったり、逆に見えているものが見えなくなってしまったのだ。

さて、世にも不思議な現象は実は全く不思議でもなんでもないということが分かってしまった。だが、このように科学が超常現象を解明してしまうと、この世界から魅力が失われてしまうのではないか？この問いにワイズマンはこう答える。

“今回の旅に出発するとき、私たちの前にオズの世界よりはるかに不思議がいっぱいの世界が待っていると、私は言った。その旅の行く先は、さほど遠くではなかった。それは、あなたがいま暮らしている場所。あの素敵な『オズの魔法使い』の映画の最後で、ドロシーがいみじくも言ったように、わが家にまさるところはないのだ。”

(新潟県立新潟高等学校2年 風間 光)